

取組の背景

令和5年度の検証（1126そ林小班）において、忌避剤散布後2週間程度はエゾシカによるカラマツ食害に対して効果があることが明らかになった。本年度発表では、忌避剤の効果持続性について検証するとともに、エゾシカ食害の季節性について考察した。

取組の内容・成果

試験地概要

箇所：中標津町国有林1109い林小班
面積：2.73ha植栽面積：0.91ha植栽本数：1,400本
植栽年月：令和6年6月
植栽樹種：カラマツ（コンテナ苗）
植栽仕様：列間4.00m、苗間1.52m
使用薬剤：全卵由来成分粉末
10倍希釈、15ml/本



調査方法

6列×8本からなるプロットを5つ設定し、初回散布から次回散布までの期間を変えて被害調査を実施した。（プロット①：約20日・・・プロット④：約80日）また、プロット④の2回目忌避剤散布から約80日後の11月15日に、再度被害調査を実施した。あわせて、エゾシカの活動状況を把握するため、自動撮影カメラを設置した。

調査結果

表1 エゾシカによるカラマツコンテナ苗の食害本数

散布日	プロット①	プロット②	プロット③	プロット④	プロット計	対照地
6月19日	0	0	0	0	0	0
7月9日	0	0	0	0	0	1
7月31日	0	1	0	1	2	0
8月19日	1	0	0	0	1	1
9月9日	0	1	0	0	1	3
計	1	2	0	1	4	5
11月15日	1	1	4	4	10	2

※橙塗りつぶし箇所は忌避剤散布

- 散布した4プロット間の比較では、それぞれ0～2本の食害が確認され、散布から散布までの期間による差異は確認できなかった。
- 散布地と対照地との比較では、9月9日時点までの散布地の食害合計本数が4本（食害率2%）、対照地の食害合計本数が5本（食害率10%）であり、忌避剤による効果が認められた。
- 忌避剤散布終了後の11月15日の被害調査では、すべてのプロットで食害が確認された。

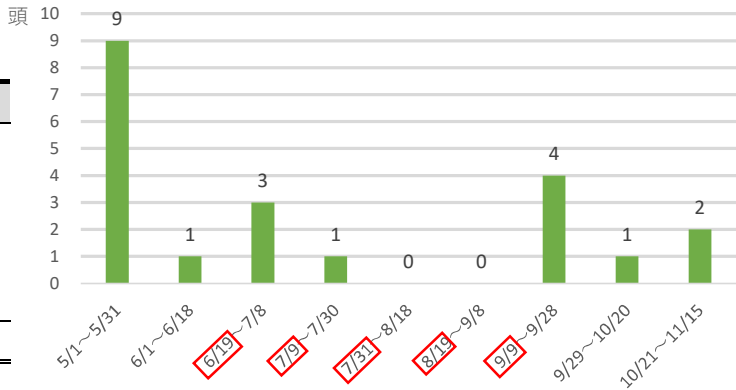


図1 自動撮影カメラで確認されたエゾシカ個体数

※赤枠は忌避剤散布日

- 確認できたシカ個体数は計21頭で、最初の散布日以前に10頭、最終散布日以降に7頭が確認された。
- 7月14日から9月20日の間は確認できなかった。

【表1】、【図1】より

忌避剤散布期間にエゾシカ頭数が減少し、散布プロット間の差異が確認できなかったため、忌避剤の持続性によるものなのか判断できなかった。

考察

散布地と対照地との比較から、令和5年度に引き続き忌避剤の有効性について確認できた。秋季に食害数が増加していることから、植栽直後及び夏の終わり頃（8月下旬）の散布が効率的と推測される。また、夏季のエゾシカ頭数の減少については、エゾシカの牧草採食との関係も考えられる。

今後の展望

- 令和6年度の結果をより明確にするために、引き続き1109い林小班の観察を行う。
- 令和7年度については牧草が成長する前の6月及び牧草の刈取りが完了する9月に再度忌避剤を散布して検証を行う。

